

タマちゃんとおばあちゃん

ここは、上とよまつ。ここには、モリアオガエルが すんでいて、ことしも あわのたまごを うみました。

そこへ、このすぐ ちかくに すむ いの上の おばあちゃんが やつて きました。いの上の おばあちゃんは、

「おやおや ふわふわの たまごが うまれたね。ことしは、きよねんより たくさんあるね。オタマジャクシに なるのが たのしみだわ。」

と にこにこ しながら いいました。そして、まい日 たまごを 見に きて くれるのでした。

なん日か すると、あわの たまごの 中で オタマジャクシが 生まれました。タマちゃんも その中の 一ぴき です。

「わあい オタマジャクシになったぞ うれしいな。」

と よろこぶ タマちゃんを いの上の おばあちゃんは うれしそうに 見ています。「こんにちは。 ぼく タマちゃん。 よろしくね。」

タマちゃんたちは、早く 田んぼに とび出して じゆうに およぎたくて たまりません。ところが、ことしは、雨が ふらないので、タマちゃんたちが およげる 水たまりが ありません。それに、さいきん いの上の おばあちゃんも 見にきて くれません。

「おばあちゃん、どうしたのかなあ。このままじゃ ぼくたち、ここから 出られないよ。あわの たまごも かわいて しまうよ。」

タマちゃんたちは 日に日に 元気が なくなつて いきました。

そのときです。いの上の おばあちゃんが かけつけて くれました。

「ごめんね。タマちゃんたち。ながい こと 見に きて あげられなくて。びようきで しばらく ねこんで いたの。でも、もう だいじょうぶよ。いま すぐ 水たまりを つくつて あげるからね。」

といって、スコップで 田んぼを ほつて ふかい 水たまりを つくつて くれました。

「やったあ、うれしいな。」

タマちゃんたちは、つぎつぎに 田んぼへ とびこんで いきました。そして、うれしそうに 見おくつて くれる いの上の おばあちゃんに

「ありがとう、おばあちゃん。 ぼくたち りっぱな モリアオガエルに なるからね。また あおうね。」

といって、元気よく しっぱを ふつて およいで いきました。